

グリーン四国

No.1169
2017年
8月号

学生を対象とした業務説明会を開催



業務説明会参加者の皆さん

目次

- ・学生を対象とした業務説明会の開催について…………… 2
- ・国家公務員安全週間の取組…………… 2
- ・各地のたより…………… 3
- ・「日本美しい森 お薦め国有林」の紹介 第3回「工石山自然休養林」…………… 6
- ・新任者略歴紹介…………… 7
- ・シリーズ 四国の森林からこんにち^{もり}は…………… 8



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

学生を対象とした業務説明会の開催について

7月27日、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）を受験し、一次試験に合格している学生等6名を対象に業務説明会を開催しました。

当日は嶺北森林管理署管内の国有林内において、誘導伐（複層更新伐）や作業路網を使った作業システム、また、ICTの活用事例等について説明を行いました。

ICTの活用事例のひとつとして、実際にドローンを飛行させ、上空から帯状に伐採された誘導伐の様子を撮影し、その様子を確認しました。また、ドローンで撮影した画像については、パノラマ合成や3D化できること等を説明し、参加者は、



ドローンに関心を示す参加者

ドローンの有効性について、大きな関心を示していました。

次に、「日本美しの森 お薦め国有林」に選定された工石山自然休養林に移動し、森林保護員の案内により工石山の魅力や、自然の雄大さ、美しさを体感していました。その後、帰局し、入庁案内や、森林官の仕事についての説明を行いました。

今回の業務説明会を通して参加者からは、「実際に体験し職場の雰囲気を知ることができた」、「国有林での業務をイメージすることができ理解を深めることができた」、「職場の雰囲気の良いことが伝わってきた」等の声を聞くことができました。

今回、参加した学生は、今後、希望する官庁への採用に向け、採用面接へと進みます。

今回の業務説明会で、国有林の魅力



ドローンを見上げる参加者（ドローンで撮影）

力、やりがい等、理解を深めて、関心を持って頂いたと考えています。

〈総務課〉

国家公務員安全週間の取組

7月1日から7日までの一週間、「もう少し」はやる気持ちに、潜む危険 余裕を持って 安全作業」をスローガンに、平成29年度国家公務員安全週間が実施されました。

局・署（所）では、安全週間に安全大会や安全パトロールなどの各種取組が行われ、職員一人ひとりが安全意識の向上と、災害の未然防止への決意を新たにしました。

安全週間の初日には、局幹部による安全旗の掲揚、2日目以降は各課輪番で安全旗掲揚を行うことで、それぞれの安全意識の向上を図りました。



安全旗の掲揚

また、7月3日には局大会議室において安全大会が開催され、最初に局長から、災害の発生状況、災害防止の責務及び安全意識の高揚等についての訓示があり、午後から高知県警交通課長より「交通事故の防止」と題しての交通安全講話が行われました。講話では、近年の交通事故の発生状況や、高知市内の交通事故の多发箇所、車載カメラの映像による交通事故状況についての説明がありました。



交通安全講話の様子

聴講した職員は、日頃から通勤や現場出張等、車を運転する機会が多いことから、講話に熱心に耳を傾けていました。

これらの安全週間の取組を契機として、職員一人ひとりが安全を常に意識し、災害の未然防止に取り組んでいただきたいと思います。

〈総務課〉

各地のたより



剣山一帯でのクリーンハイクに参加しました

淡いピンク色のシャクナゲが満開に咲く6月4日（日）、徳島森林管理署（多田弘之署長）では、剣山一帯で行われた第43回「剣山クリーンハイク」に参加しました。



満開のシャクナゲが迎えてくれました

クリーンハイク当日は、県内のボランティア団体、徳島県勤労者山岳連盟、徳島県、徳島森林管理署など様々な団体・機関から約50名が参加

し、主要な歩道沿い、稜線部を中心にゴミを拾いながら、剣山山頂、一ノ森などを目指し、参加者それぞれが登山を行いました。



多くのハイカーが訪れていました（剣山山頂付近）

歩道やその周辺には、ジュースの空き缶、ガムの包装紙、トイレトーパーなど、多種のゴミがありました。回収したゴミの量は年々少なくなっており、登山者のマナー向上がうかがえる結果でした。徳島森林管理署では、今後も各種

各地のたより 目次

- 剣山一帯でのクリーンハイクに参加しました
- OB・OGによる職場説明会
- 国有林・民有林合同意見交換会
としがき利岡小学校で親子森林・木工教室を開催
- 松野西小学校で年間を通した森林環境教育を開催
- 西土佐小学校で『木材の特徴』についての講義と実験を開催

団体等と連携した森林の美化活動に積極的に取り組んでいきます。

〈徳島森林管理署〉

OB・OGによる職場説明会

6月21日、愛媛大学で、「OB・OGによる職場説明会」が開催され、愛媛森林管理署から、卒業生の毛利技官が出席しました。

当日は、これから専門課程に進み本格的に森林・林業を学ぶ2回生17名、既に実技演習等を経験し、今後より深く学んでいく3回生26名の計43名が参加しました。

手作りの資料や林野庁情報誌等を用いて、林野庁の概要や自身が日頃行っている森林育成の実務等について説明し、森林管理局・署がどのような業務を行っているかを紹介しました。

参加した学生は、仕事への興味が湧いたようで、多くの質問があり、仕事に就く意義や、就職後の将来像などを改めて考える良い機会となりました。



説明会の様子

たようです。さらに、「インターンシップへ参加したいので、問い合わせはどうしたらよいか」といった積極的な声も上がり、林野庁のアプリと優秀な若手獲得への布石となりました。

また、学生の時にしておいて良かったことや、仕事をする上で人の関わりを大切にすること、自分の将来を真剣に考えることなど、説明者の経験に基づいた話を聞いて学生達はうなづいていました。

愛媛大学と四国局とは平成26年度に連携協力協定を締結しており、これに基づき、当署でも、お互いが有益となるよう、出前講義や、調査研究のためのフィールドの提供など、同大学との連携を更に強化していく考えです。

〈愛媛森林管理署〉

国有林・民有林合同意見交換会

6月29日、宇和島市津島町の南予森林組合津島支所において、愛媛県南予地方局と愛媛森林管理署の南予地区に勤務する職員による「国有林・民有林合同意見交換会」を開催しました。

この意見交換会は、昨年の愛媛県本庁との林政協議会において、これまで築いてきた、県森林局と当署との緊密な協力関係を県内の出先機関の職員間にも広げ、関係強化を図ってはどうかと論議したことを踏まえ、第一弾として南予地区での開催となったものです。

当日は、愛媛県から南予地方局森林林業課の山内主幹をはじめ、森づくりグループの6名が参加し、当署からは職員7名が参加しました。



南予地方局、山内主幹挨拶

意見交換会は、当署から国有林の概要及び本年度の主要取組の説明を行い、各森林官は、緊張しながらも管轄区域の概要や特徴について説明を行いました。

愛媛県からは、南予地方局管内の森林・林業、木材産業等の現状や林業躍進プロジェクトの実施状況等についての説明がありました。



森林官による管轄区域の説明

続いて、大規模製材工場や木材価格の動向、主伐の増加に伴う造林作業に従事する労働者の確保、久万高原町内の民有林で行われている主伐と植付の一括発注の事例等について、予定時間を超過して、活発な意見交換が行われました。

今回の意見交換を契機に、今後とも国有林と民有林が共通の課題の解決に向けて、連携を深めることを確認して意見交換会を終えました。

参加した職員からは、短い時間で

はあったものの、貴重な時間を共有できたとの感想があり、今後、東予地区、中予地区での開催も検討しているところです。〈愛媛森林管理署〉

利岡小学校で親子森林・木工教室を開催

7月1日、四万十市立利岡小学校で全校児童31名と父兄を対象に親子森林・木工教室を開催しました。

最初に紙芝居「森」のお話で木や森林の大切さを知ってもらいました。次に、昆虫の壁掛製作に取り組みました。コルクの木枠、カフトムシやクワガタムシの各パーツ、動眼（動く目玉）、小枝等を自由に選んで、ボードでヒノキの板に工夫しながら



昆虫の壁掛け製作中の様子

貼り付けて作品を完成させました。参加した児童からは、後日、「森はほったらかしにしておく人間にも動物にも悪い影響しかないから、大切な森をちゃんとお世話してあげなきゃいけないことがわかりました」「みんな同じ物を作っているのに、それぞれ違うからすごいと思いました。工作が上手に出来て嬉しかったです」等の感想文をいただきました。

授業参観日の機会に、児童と父兄と一緒に楽しく木を使って工作ができたことで、森林の大切さや木材利用についての理解を深めてもらえたと思います。

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

松野西小学校で年間を通じた森林環境教育を開催

愛媛県松野町立松野西小学校の4年生（本年度児童16名）は、平成19年度から「総合的な学習の時間」を利用して毎年度4〜6回継続して森林環境教育を実施しています。

今年度も学校からの要請を受け、年間5〜6回実施する予定となっており、第1回目として、7月6日に木工クラフト学習を実施しました。

最初に、材料となる木材の優れた性質（長所）や欠点（短所）のほか、木材を上手に使う工夫をして色々な物や場所に木材が使われていることを説明しました。

次に、昆虫の壁掛け製作を行い、児童達がクワガタムシ、カブトムシ、チヨウ、テントウムシ等の各パーツに色をぬり、ポンドでヒノキの板に貼り付けて作品を完成させました。最後に、児童の代表から「これからの森林学習がとて楽しみですので」と感想をいただきました。



昆虫の壁掛け製作の様子

第2回目となる7月11日には、校庭の樹木学習を実施しました。

最初に、「森林の働き」について説明し、次に、下敷き「いろいろな木と葉っぱ」を用いて、この後に予定されている校庭の樹木学習で観察するポイントについて簡単に説明しました。

その後、実際に校庭の樹木の幹や枝葉に触れ、木の肌の感触や葉の匂いを嗅ぐなどの体験を通して、33種の樹木の名前や特徴を分かりやすく説明しました。



校庭の樹木学習の様子

2学期からは、「空飛ぶ種子」や「水の土壌浸透実験」、「八面山登山」等の森林環境教育も引き続き実施する予定です。これらの年間活動を通して、森林の大切さ、木材利用についての理解を深めてもらいたいと思います。

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

西土佐小学校で『木材の特徴』についての講義と実験を開催

四万十市立西土佐小学校より、「今年の四万十川ウルトラマラソンの際に児童が、板に絵を描いて選手にブレセントをしたいので、材料をいただくことが出来ないか」との相談と、

『木材の特徴』についての講義をしてもらいたい」との要請がありました。当所では、スギ板の在庫があったので、児童に木材の良さを知ってもらう絶好の機会と考え、10cm角のスギ板100枚を準備しました。

そして、7月12日に6年生11名を対象にした、『木材の特徴』についての講義を実施しました。

最初に、木材は古くから私たち日本人の生活になくはならない存在であること、優れた性質（長所）や欠点（短所）があること、木材が色々な物や場所に利用されていること等を説明しました。



『木材の特徴』について説明の様子

その後、日本で一番軽い木（桐）と日本で一番重たい木（イスノキ）、世界で一番軽い木（バルサ）と世界で一番重たい木（リグナムバイタ）について紹介し、世界で一番軽い木と重たい木の2つの重さを水槽や上皿天秤ばかりを使って比較する実験

を行いました。

天秤ばかりの実験では、1cm角のリグナムバイタ1個を右側の皿にのせ、同じ大きさのバルサを左側の皿に置くと同個で重さがつり合うかを予想してもらいました。



木材の重さの比較実験の様子

最後に、児童の代表より、「実験が楽しかった。木材のことを知ることが出来ました。」その後、戴いたコースターを使って絵を描きます。」と感想等がありました。また、学校からは、「日頃からのご支援・ご協力に感謝致します。」とお礼の挨拶がありました。

当所としても地元元小学校の要請に応えることができ、大変有意義であったと考えています。

これからも、児童には、木材に親しみ、利用してもらいたいと思います。〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

第3回

「日本美しの森 お薦め国有林」の紹介 〈保全課〉

工石山自然休養林

〈嶺北森林管理署管内〉



1 概要

所在地 高知県土佐町・高知市
面積 2806.88ha
指定 昭和46年2月23日

2 特徴

工石山自然休養林は、高知市と土佐郡土佐町へまたがり、土佐湾へそそぐ鏡川と、紀伊水道へそそぐ吉野川の支流地蔵寺川との流れをへだてる分水嶺に位置しています。

工石山自然休養林には、樹齢200年に及ぶモミ、ツガ、ブナ、ヒメシヤラ等の天然林とスギ、ヒノキの人工林からなっており、シヤクナゲ、ツツジ等の低木類、足下ではバイカオウレン、リンド

ウなどが、四季に応じて花を咲かせています。

また、キジ、山鳥をはじめ約100種の野鳥やウスバシロチョウ、キアゲハなど約50種の昆虫、リス等の獣、溪流「さいの河原」には、サンショウウオが生息し、「動植物の宝庫」となっています。

工石山の標高は、1,176mとなっており、山頂へ続く登山道は緩やかで、途中には休憩所が整備され、お年寄りや子どもでも気軽に登ることが出来ます。

さらに、登山口が高知市中心部から約26km(車で1時間弱)と近距離にあるため、手軽に自然に触



工石山のブナ

3 みどころ

れ合える「県民の森」、高知市の「市民の森」として親しまれており、都市近郊林としてトレッキングを楽しむことができます。

工石山は石灰岩の山で、セメントなどの原料となる鉱石のドロマイト(苦灰石)の採石がされていた歴史があります。変わった形の岩が多く、後述しますが、妙体岩やヒノキ屏風岩、白鷺岩、さいの河原などの名前が昔から付けられ親しまれています。

工石山山頂への登山コースは、土佐町側と高知市側とありますが、主なコースは、高知市側の赤良木トンネル南口(青少年自然の家)の登山口から登る「北まわりコース」と「南まわりコース」があります。

北まわりコースは、岩の形が鷲のくちばしに似ていることが特徴の「白鷺岩」や、トドの頭に見えることから「トド岩」と呼ばれる岩があり、その岩からは、石鎚山系や剣山系、嶺北地域の棚田などが見渡せます。また、「赤良木園地展望台」があり、工石山の中でも、最も広く視界が開けている場所となり、眼下には高知市、南国市、香美市そして、その奥に広がる太平洋などの風景がパノラマビューで楽しめます。さらに、山頂までの間には、昭和38年の台風の強風により、スギが根元から曲がりそのまま成長した「根曲り杉」

や、猛烈な風の襲来に耐えきれず倒れてしまった「天然ヒノキ風倒根」などのポイントを見ながら、1時間少々で山頂まで登ることが出来ます。

南まわりコースは、眼下に鏡川の流れを見渡すことのできる「ヒノキ屏風岩」といった展望ポイントや、鏡川源流の一つである「さいの河原」などがあります。また、アケボノツツジとともに春の工石山を楽しませてくれるシヤクナゲの群生地である「シヤクナゲ道」があり、花やその風景を見ながら、約2時間で山頂まで登ることが出来ます。

さらに、ほかのコースとして登山口を異にする妙体コース及び沢登りコースもあり、中でも妙体コースには、「妙体岩」と呼ばれる太平洋を見下ろす絶壁の大岩があり、その昔、山内一豊公がこの大岩を目標として土佐に入国したという伝説があります。

工石山の登山コースは、いずれも初心者でも登山できます。登山道もよく整備されており、頂上や岩山からの景観はもちろんのこと、道中の様々な場所で自然美や雰囲気を楽しめることができます。皆さんも「草木の花咲く道の先、太平洋と山々の織りなす雄大な景観」を楽しみながら、工石山の魅力を五感で味わってみませんか。



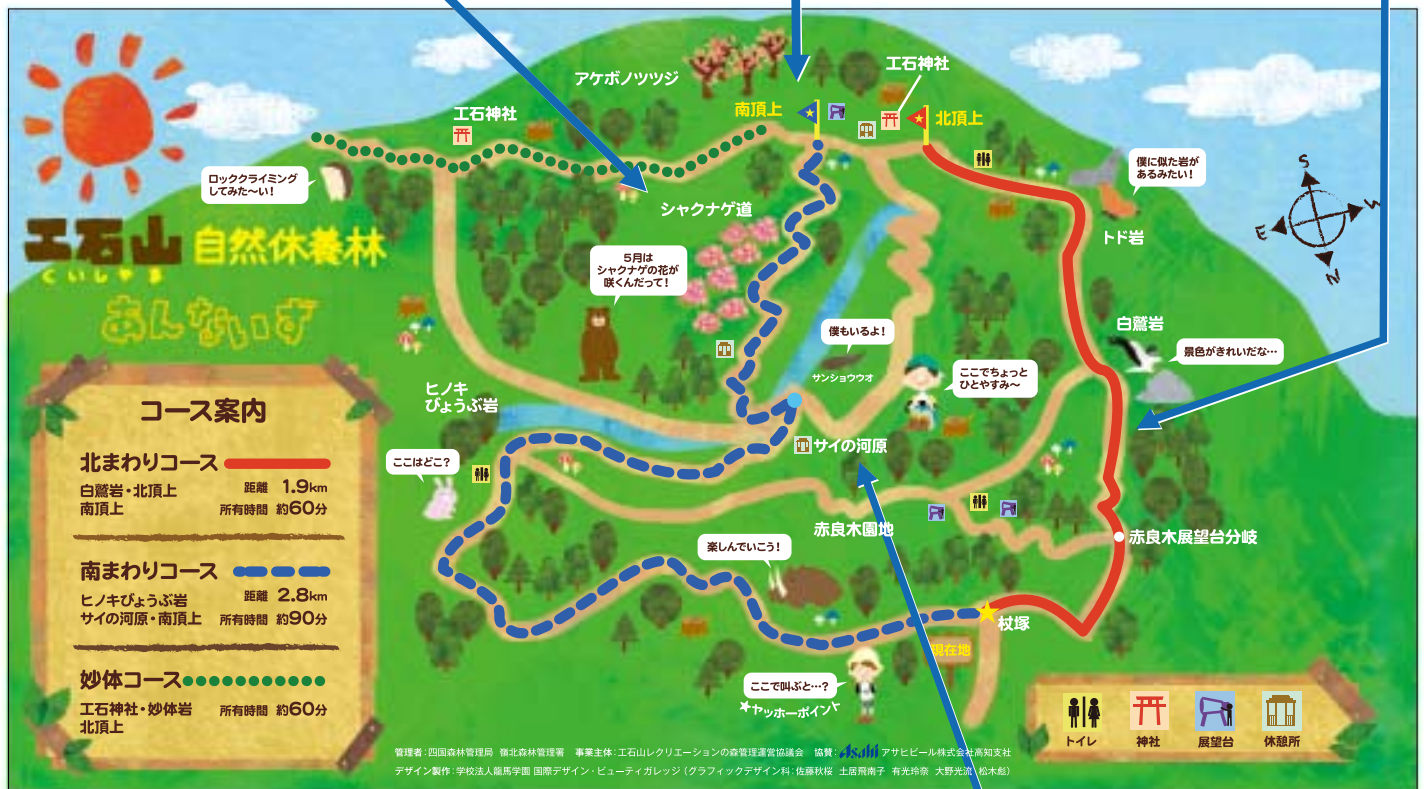
春のシャクナゲ道



工石山山頂から太平洋を望む



根曲がりスギ



新任者略歴紹介



業務管理官
江坂 文寿

- 昭和 62 年 4 月
林野庁指導部治山課採用
- 平成 8 年 8 月
熊本営林局八代営林署長
- 平成 26 年 1 月
林野庁森林整備部治山課
水源地治山対策室長
- 平成 27 年 4 月
中部森林管理局計画保全部長
- 平成 29 年 8 月 現職



霧に烟る溪流「さいの河原」



アケボノツツジ

シリーズ

もり 四国の森林からこんにちは

愛媛森林管理署 小田第一森林事務所
 森林官 野村 祐樹
 小田第二森林事務所
 森林官 水田 英司



ごしきがわら
五色河原での1枚

当森林事務所の所在地、喜多郡内子町（旧小田町）は、愛媛県のほぼ中央に位置し、笠取山や大川嶺など標高1200m～1300m級の山々に囲まれ、深い渓谷を形成している「小田深山」があります。小田深山には、高松宮殿下が名付けられた「藤見河原」や、竜が住むと伝わる「安芸貞淵」があり、春は美しい新緑、夏はバーベキューや川遊び、秋は真っ赤に染まる紅葉、冬はスキー場で雪遊びなど、表情豊かな風景を楽しめる観光スポットとなっています。

その小田深山をほぼ管轄しているのが小田第一森林事務所で、約3300haを管轄しています。

また、小田第二森林事務所は、小田深山の一部と西予市に位置する大野ヶ原周辺の約2200haを管轄しています。大野ヶ原は、通称「日本のスイス」と呼ばれる日本三大カールストの一つであり、明治40年には陸軍大砲実射撃大練兵場に指定され、今でも、砲車道跡がきれいに残っています。

このような、豊かな自然が魅力的で歴史ある山々を現在は森林官2名、再任用職員2名の計4名で管理しています。小田深山の林内は2m近くのスタケが多く、歩くだけでも重労働な中、各種調査等四苦八苦しながら事業を進めており、森林資源の豊富なこの小田深山をより良い山にしていくなために日々努力しています。

また、小田の地域の方々は、転勤族の私たちを温かく迎えてくれます。ここ数年、地域の伝統行事（獅子舞）やイベント、清掃活動、飲み会?にも積極的に参加し交流を深めています。

私たちは、この小田深山で、民有林をリードしていけるように職員同士はもとより、地元自治体や森林組合、地域の方々とも連携しながら、新たな取り組み等を積極的に取り入

れ、後世に自慢できるような国有林を目指していきたいと考えています。

魅力たっぷりの小田地区に、皆さん、遊びにいらして下さい。



小田深山溪谷



竜が住むと伝わる安芸貞淵